

「第 22 回 製剤機械技術学会 仲井賞」
受賞者の選考結果について
The 22nd NAKAI Award of Japan Society of
Pharmaceutical Machinery and Engineering

仲井賞選考委員会 委員長 丹羽 敏幸
Toshiyuki NIWA
Chair of Selection Committee of the NAKAI Award

本学会では創立 10 周年を機に、2000 年より表記の賞を設定し、製剤機械技術の進歩と発展に貢献した個人又はグループの功績を顕彰しております。

仲井賞選考委員会において、応募内容について新規性、実用性、社会における貢献度の観点から、慎重かつ厳正に審査した結果、下記を「第 22 回 製剤機械技術学会 仲井賞」受賞者として会長に報告し、理事会にて受賞者が決定いたしました。

記

- ・ 受 賞 者：林 健太郎、鈴木 拓麻、長田 優希、森田 勇樹（シオノギファーマ株式会社）
- ・ 受賞業績題目：連続生産による製剤製造方法の実用化と普及
- ・ 受賞理由：受賞者らは固形製剤の連続生産システムの構築に取り組み、粒子設計工学を基盤とする生産工程の深い理解と製品に至るまでのシステム工学の融合を図り、連続生産に必要な工程管理戦略や PAT（プロセス解析工学）を利用したモニタリング制御システムを独自に構築した。湿式造粒工程とそれに続く乾燥・整粒工程に理想流れモデル（PFR）と非理想槽列モデルを組み合わせた独自の RTD（滞留時間分布）モデルを構築し、さらにそれに続く混合・打錠工程における製錠顆粒中の含量を反映する NIR（近赤外分析）モニタリングデータを統合し、バッチ生産での経験を連続生産へ応用する工夫を図った。それらの成果は、抗インフルエンザ薬のゾフルーザ錠 20 mg の連続生産方式による製造承認を得るに至り、実用面として結実した。これは CDMO として本邦で初めての連続生産による製造承認であり、今後自社製品のみならず、多くの他社製品での実用化が期待される。また、受賞者らは本技術開発により得た知見を各種の技術講習会で講演し、業界雑誌の解説記事に掲載するなど、本邦における連続生産技術の国際的競争力の向上にも貢献した。
以上のように、本業績は、新規性、実用性、国内での製剤生産技術の向上における貢献度から仲井賞受賞に十分値すると判断する。

以上